

令和3年度第1回地域福祉専門部会 意見票のまとめ

(質問の内容が類似するものについてはまとめています)

(1)地域福祉専門部会の進め方について

番号	ご意見	回答・対応
1	それぞれの立場を代表して参加しているので、聞だけの会議ではなく、各委員にもう少し意見を述べる機会をつくっていただきたい。それぞれの現場で抱えている課題を共有し、そこから地域の結びつきを考えていけたらと思う。	現在検討を進めている重層的支援体制整備事業は、地域住民の方のつながりや、地域の社会資源の活用が重要になっていくことから、専門部会において各委員から広くご意見、お考えを伺えるよう努めてまいります。

(2)重層的支援体制整備事業の概要について

番号	ご意見	回答・対応
1	<p>I 相談支援について、ニーズと支援の間に立ちほだかる壁として、①「意識の壁」、②「情報の壁」、③「制度の壁」がある。③は相談支援包括化推進員の取組で改善されるが、①、②は信頼関係づくりやアウトリーチによる情報提供など、地域福祉コーディネーターの活躍によるところが多いと考えるので、よりきめ細かな配置を進めてもらいたい。</p> <p>II 参加支援に関しては、住民参加による居場所づくりなど取組は拡大している。勝どきデイルームのような使い勝手のよい活動拠点の整備が進めば、利用団体（担い手）は多く出てくると思う。</p> <p>III 地域づくりに向けた支援については、家族や地域の自助力・共助力低下により生活支援ニーズが噴き出している。これに寄り添う支援（家族に代わりコンシェルジュ機能を果たす寄り添い支援）が必要である。これを地域福祉コーディネーターが担うのか、民生委員が担うのか、近隣地域が担うのかを考え、発掘し、育成していかなければならない。</p> <p>重層的支援体制整備事業全体について、地域防災（災害時に要援護者を守る仕組みづくり）も含めて議論していくべきである。</p>	<p>ご意見のとおり、I～IIIのどの支援においても、地域福祉コーディネーターの役割が大きいものであると認識しております。平成29年度より社会福祉協議会で実施している地域福祉コーディネーター事業について、令和4年度から区の委託事業とし、社会福祉協議会と区が一体となって取り組み、体制の充実を図ってまいります。</p> <p>また、重層的支援体制整備事業により、困りごとを抱える住民を地域全体で支える環境を構築することは災害時にも有効であることから、重層的支援体制整備事業の実施体制の検討にあたっては、地域防災の観点も重要な要素であると考えます。</p>
2	中央区はマンションが多く、訪問しても会うことができず、誰が暮らしているのかわからない状況である。支え手はあるが、受け手側ももっと積極的に住民と交流してもらえればと感じている。	—
3	令和6年度より実施とのことであるが、より早い実施を期待したい。	福祉総合相談窓口（仮称）について、令和6年度の開設に向けて検討していることから、重層的支援体制整備事業の本格実施は同時期としております。包括的相談支援、アウトリーチによる継続的支援等、重層的支援体制整備事業で求められている内容はすでに取り組んでいる部分も多く、本格実施までの間は各事業を段階的に充実させてまいります。

4	<p>例えば他県、他区などから転入してきたひとり親家庭の母親が地域に溶け込めず孤立しているケースがあるが、コミュニティサロンは年代が限定されうまくつながれていないようである。このような場合は、地域づくり事業における「居場所の確保」につながるのかと思うが、この居場所とはどういったものをイメージしているのか。</p>	<p>ご意見のとおり、地域子育て支援拠点事業として実施している子育て交流サロン「あかちゃん天国」などは乳幼児とその保護者、もしくは妊娠中の方と、利用対象が限られています。</p> <p>重層的支援体制整備事業の地域づくり事業においては、各制度が対象としている高齢者、障害者、子育て中の親子などの居場所を確保した上で、すべての住民を対象とした交流の場や居場所の確保を進めることとされています。例えば、コミュニティカフェ、多世代型のサロンや地域食堂などがこれにあたりますが、すでに社会福祉協議会が取り組んでいます。勝どきダイルムや浜町のはまる一むを地域活動拠点として、誰もが参加できる「おとなりカフェ」やコーディネーターに相談できる「ちょこっと相談会」を定期開催しているほか、様々なサロン活動を支援しており、多世代交流を目的とした誰でも利用できるみんなの食堂やその他のサロン活動が行われています。</p> <p>こういった地域活動へのつなぎについては、地域福祉コーディネーターが担っています。また、民生委員から地域福祉コーディネーターにつながれ、そこからサロンへのつなぎがされることなども考えられます。</p>
5	<p>「第2期中央区地域福祉活動計画」の岸委員の説明の中で、この活動計画に共感してくれる人を増やしていきたいというようなことを述べられたが、基本理念である「さまざまなつながりと支えあいをはぐくむ」に共感、共鳴してくれる人を増やすことが、目指す地域の姿につながるのだろうかと思う。「共感」とはあくまでも個人的な思いである。地域活動の担い手を育て、地域活動を活性化するには、ただ共感者を増やすのを目的とするのではなく、地域のつながりの仕組みを作り上げていくことが必要なのではないか。</p>	<p>(岸委員よりご回答)</p> <p>雑駁な説明でわかりにくかったかも知れませんが、地域のつながりづくりには共感原理に基づく関係性が必要です。「共感」を一概に定義づけることは難しいところがありますが、それは顔の見える関係性と言えるもので、ここでは共感者＝顔見知りと捉えていただいただけでわかりやすいと思います。すなわち共感者（顔見知り）を増やすことは目的ではなく、地域のつながりづくりのための手段であり、その手段を地域の多様な立場・属性の方々が使って仕組みができあがれば、やがては「さまざまなつながりと支えあいをはぐくむ」地域へ結実していくと考えます。</p>
6	<p>「第2期中央区地域福祉活動計画」P.28の取り組み例において、「イベント等を通じ地域との交流を深める」とあるが、新型コロナウイルスによりイベントのあり方自体が変わってきていると思う。今後のイベントのあり方として、どのようなイベントをイメージされているのか。</p>	<p>(岸委員よりご回答)</p> <p>すでに様々なところでコロナ禍を逆手にとったイベントが行われていますが、社協での取り組みとしては小規模・分散型での実施が功を奏しているように思います。先日、ある町会主催の親子防災イベントに参加させていただいたのですが、一般的に親子というのは子育て世代であり、8050等大人になった子とその親は認識されにくい、という気づきがあり、そうしたコアな層の交流にも小規模・分散型は親和性があると思いました。</p>

(3)地域カルテの更新について

番号	ご意見	回答・対応
1	<p>各地域において、行政（相談支援包括化推進員）・社協・おとしより相談センターの3者連携で支援していく「地域支援チーム」を編成し、地域福祉懇談会の開催や地域カルテの更新、民生委員協議会の定例会への参加など、チーム支援の体制構築をしてはどうか。</p>	<p>個別の課題については、現在も3者が連携して支援にあたっておりますが、チームとして地域課題に取り組む体制を構築する段階には至っておりません。重層的支援体制整備事業を進めるにあたっては、この3者と地域が協働して地域課題の解決を目指す仕組みづくりは必要であると考えます。どのような体制を構築していくかについて、今後検討してまいります。</p>
2	<p>とてもよいカルテで自分の住む地域の実情がわかりやすく、民生委員活動に多いに役立っている。</p>	<p>—</p>
3	<p>町会、自治会、防災区民組織等、一人でも多くの方の目に触れるよう周知していただきたい。</p>	<p>これまでもご意見を伺い、配布先等を充実してまいりました。今後も、配布先、配布方法について、委員の皆様にご意見を伺い検討していきたいと考えております。</p>

(4)地域福祉懇談会の実施について

番号	ご意見	回答・対応
1	グループワークのテーマについて、テーマのエ「潜在しているニーズへの対応～支援を求めない方へのアプローチを考えよう」とあるが、支援も求めない方へのアプローチの前提として、テーマのアの「見守り」があると思う。まず、見守りを通して地域のつながりをつくる、そのつながりの中でエの潜在しているニーズが出てくるのではないかと考える。個人では支援を求めない方へのアプローチは難しいということであれば、地域での色々な連携の中でそのような課題に対応できるのではないかと考える。まずは地域力をどのように高めるか、それが一番の課題だと思う。	ご意見や今年度の実施状況を踏まえ、今後の地域福祉懇談会の実施内容を検討してまいります。
2	昼間の時間帯の開催でもいいのではないかと。	今年度は地域ごとに午前・午後・夜間の各時間帯で開催しております。参加者のご意見も参考にし、来年度の開催時間については検討しています。
3	自分の住む地域を真剣に考えている方も多と思うので、年に数回参加者を変えながら開催することで裾野が広がっていくのではないかと。特に月島地域は人口が増えているので、若い世代にも参加してもらえようと考えていただきたい。	今年度は参加者を公募する形をとりましたが、どの地域も定員には及ばない、また若い方の参加もかなり少ない状況であるため、開催にあたって工夫が必要だと考えています。

(5)その他

番号	ご意見	回答・対応
1	ヤングケアラーの問題を取り上げてほしい。	制度の狭間の課題として、重層的支援体制整備事業で実施する支援の検討に含めて考えてまいります。